氏　　名	清水　壯洋
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博　甲第　6902 号
学位授与の日付	2023 年 9 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 （学位規則第 4 条第 1 項該当）
学位論文題目	Analysis of temporal changes in thickness from conjunctiva to sclera after plication of the medial rectus muscle measured by anterior segment optical coherence tomography （前眼部光干渉断層計で測定した内直筋プリケーション後の結膜から強膜までの厚さの経時的変化の解析）
論文審査委員	教授 大内淑代　　教授 安藤瑞生　　准教授 安原隆雄

学位論文内容の要旨

斜視の低侵襲な手術法として plication 法が用いられている。外眼筋を折りたたんで短縮し、結膜隆起を生じるが、結膜隆起の術後経過について詳細は不明である。我々は前眼部光干渉断層計を用いて結膜隆起の経時的変化の特徴や筋短縮量との関係について評価をした。2016 年 12 月～2020 年 3 月に岡山大学病院にて外斜視に対して plication 法による斜視手術を施行した 27 名 32 眼を対象とした。術前、術後 1 ヶ月、4 ヶ月、12 ヶ月に角膜輪部と筋付着部における結膜から強膜までの厚さ（thickness from the conjunctiva to sclera：TCS）を測定した。筋短縮量と術後 1 ヶ月および 12 ヶ月の TCS との間には、角膜輪部（P=0.62、P=0.98）および筋付着部（P=0.50、P=0.24）において有意な相関はなかった。本研究から筋付着部の TCS は術後 1 か月が最大で術後 12 か月まで減少を続けること、術後 TCS は筋短縮量と相関がないことが示された。

論文審査結果の要旨

近年、低侵襲な斜視手術法としてプリケーション法が行われている。本術式は、折りたたんだ外眼筋による結膜隆起が生じ異物感のもととなる可能性があるが、術後の結膜隆起の変化について詳細に解析されていない。本研究では、外斜視に対する内直筋プリケーションを施した症例　(27名、32眼)について、前眼部光干渉断層画像を解析し、術後の「結膜から強膜までの厚さ（TCS）」と筋短縮量との関係について検討した。その結果、筋付着部のTCSは術後 1 か月で最大となり術後12か月まで減少していくこと、筋短縮量と術後TCSとは相関しないことが示された。委員からは、年齢による眼球の状態や測定条件の違いによる補正の有無、術後患者の自覚症状とTCSとの関係などについて指摘があった。本研究者は、既報による知見に言及し、本研究の実施状況に関連付け具体的に説明し回答した。本研究は、眼科学斜視手術法における術量と術後経過の関係について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。